

Title	現代中国語における「動 + “得” + 形」動補構造の多義性と分類方法について
Sub Title	On the polysemy and the classification method of “V + de (得) + A” verb-complement construction in modern Chinese
Author	浅野, 雅樹(Asano, Masaki)
Publisher	慶應義塾大学日吉紀要刊行委員会
Publication year	2005
Jtitle	慶應義塾大学日吉紀要. 言語・文化・コミュニケーション No.34 (2005.) ,p.41- 58
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN10032394-20050001-0041

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

現代中国語における「動＋“得”＋形」 動補構造の多義性と分類方法について

浅 野 雅 樹

1 はじめに

現代中国語における“跑得快”などの動補構造は現行の文法体系においては、二つの異なる補語を伴う構造となり得る。つまりこれには状態、可能という多義性があり、状態補語¹⁾を伴う動補構造と見なされることもあれば、可能補語を伴う動補構造と見なされることもあることはよく知られている。ただあらゆる“得”を含む動補構造にこの多義性が見られるわけではない。多義性を持つものは“跑得快”，“起得早”，“说得好”，“看得清”，“写得”などの補語が単一の性質形容詞であるものと限定できる。（本稿ではこのタイプの動補構造、つまり補語が単一の性質形容詞で担われるものを以下では“V得A”と称する。）したがって、ある文中に用いられたものが状態と可能のどちらにでも解釈ができ、判別がつかないという曖昧性²⁾が生じ得るとされる“V得A”についても同様に、この種に限定されるものと見なされてきたと言える。この両者の示差的な特徴はそれぞれ否定形“跑得不快／跑不快”，疑問形“跑得快不快？／跑得快点不快？”という相違が挙げられるのが一般的である。

しかし筆者は“V得A”に対してこのように状態、可能と分類をすることに関して疑問を持つ。なぜならこのような方法で分類することにより、多くの問題と矛盾が生じているからである。張旺熹 1999, 191 頁には次のような指摘がある。

「是“可能补语”还是“状态补语”？有一个大家都认识到的问题：在“得字结构”补语中，如果补语位置上的形容词为光杆形式而又没有适当的语境提示，如“洗得干净”，“唱得好”，“跑得快”之类就会造成歧义结构。那么，什么时候是“可能补语”？什么时候又是“状态补语”？造成这种同形异构情形的原因是什么？在什么条件下得以

区分开来？ 这些都是我们应当思考的问题。」

张旺熹 1999 が言うように、中でも最も言及すべきは、どちらか判別がつかない曖昧性があるとされる事例についての問題であろう。このような“V得A”が文法体系において何を根拠にして分類がされているかということを考えると前述した否定形と疑問形以外には明言できない。状態、可能という名称から、単に状態補語は状態、可能補語は可能を表すと考えられがちであるが、実はこの状態、可能という文法的意味は簡単に捉えられる単純なものではないとすることができる。さらにこの二つの文法的意味に関しての境界線も明確に引けるものではない。本稿では主にこのような“V得A”に対して、前述した従来なされてきたような分類や説明方法から生ずる問題点を指摘した上で、どのような解釈、分類をすべきであるかということを考えていく。

本稿は2章でまず本論に入る前にどのような“V得A”に多義性があり、曖昧性が生じていると見なされていたのかということについて、事例にしたがい考察を行う。これまで多義性があるのは補語が単一の性質形容詞の場合に限られることだけが言われてきたが、更にこれらのものについては、どのような特徴が見られるのかということ述べる。3章では、これまで二つの異なる補語を伴う構造として見なされてきた“V得A”について、様々な角度から両者の類似性を示していく。そして現行の状態、可能と分けることに対する問題を指摘し、さらにこの両者の間には曖昧性はないということも証明する。4章では、現行の状態、可能と分ける分類方法によって生ずる問題点を踏まえた上で、新たに性質補語という補語の類を設け、新しい分類方法を提示する。さらにこの分類方法によってもたらされる利点を述べる。5章では否定形式の差異を二つの補語を分ける根拠とすることに対する問題点をいくつか述べる。

2 多義性を持つ“V得A”構造について

2.1 多義性を持つ“V得A”の用例

これまで“V得A”については多義性があり、曖昧性が生じているとされる例があると考えられてきたということは前章でも述べた。以下の例の(1)～(10)における下線部に関しては状態か可能という現行の分類にしたがって考えれば、どちらか判別をつけ難いと言える。

- (1) 苦根总还是小，割稻子自然比我慢多了，他一看到我割得快，便不高兴，朝我叫：《活》

- (2) 这个字写得好。《黄·廖 2000》
- (3) 楼上下大小三间屋，共六十二幅画，是丁陶来陀的手笔。屋里暗极，只有早晨看得清楚。《朱》
- (4) 以我现在的地位，交际当然很广，挣得多，花得也多，你别以为我可以帮助你过日子！《四》
- (5) 在那三四个星期里面，我们起得早，睡得早。《巴》
- (6) 我们作为运煤工人，当然干完活也吃得香。《张 1999》
- (7) 在豁蒙楼上不容易坐得久，你至少要上台城去看看。《朱》
- (8) 小王投弹投得准，打枪打得好，这次任务派他去吧。《李 1984》
- (9) 一大批信会遗失，高先生给我的信若是寄出得早。《围》
- (10) 前三门那个单位虽离小林家也很远，如坐公共汽车，也得两个小时，但前三门那里和小林家连接地铁，地铁跑得快。《故》

よって、これらの例に関してはこれまで曖昧性が生じているというように考えられてきた。ただ、では実際“V得A”の中でも、さらにどのような特徴を持つものに多義性があり、曖昧性が生ずるのかということに関しては、これまであまり考えられてこなかったようである。そこでまず本論に入る前に、この点について、(1)～(10)におけるような例を通して考察を行い、“V得A”の“A”の部分に認められる一定の特徴を指摘する。

2.2 “A”の意味的特徴

例えば“跑得快”と“跑得慢”を比較すると前者の構造には多義性があると見なされるが、後者の“跑得慢”は可能補語を伴う動補構造としては判断されにくく、一般的に状態補語を伴う動補構造として判断される傾向にある。例えば、以下の文における例を可能補語であると判別することは難しい。

- (11) 她岁数大跑得慢，你还能赶得上她。

また同様に例えば“起得早”には多義性が認められ、“起得晚”は状態補語を伴うものとしは見なされないと言える。これらの理由の一つとして、“A”の成分の意味的特徴が考えられる。つまり“快”，“早”については意図・目的あるいは能力といった意味を示すケースが多いが、一方“慢”，“晚”はこれらの意味を示すことが非常に少ないと言える³⁾。

よってこれらの意味的な要素を含んだ“A”には多義性があり、逆にこれらの要素を含むことが極めてまれであるものには状態補語という一義的な構造と見なされてきたということが指摘できる。

全般的に見ると、“A”が褒義形容詞である場合は語彙レベルで好ましい意味を持つため、意図・目的あるいは能力といった意味を示すケースが多く、これを伴う“V得A”にはほとんどの例で状態、可能という二つの多義性がある。例としては、“好”、“清”、“穩”、“香”、“准”それに一部の二音節の形容詞“干淨”、“清楚”、“明白”などが挙げられる。中性形容詞に関しては前で述べたように相対的に積極義を示す“快”や“早”で構成されるものについては多義性があり、消極義を示す“慢”や“晚”で構成されるものは状態という一義的であると見なされてきたと言うことができる。その他の例として“大”、“多”、“高”、“深”などは前者の類に、また“小”、“少”、“低”、“浅”などは後者の類に属する。当然のことながら動詞との意味的な関係により前者の類に属するものでも一義的であるとされるものも存在する。またそのほか、例えば色や距離などを表す中性形容詞は語彙レベルでは全く判別ができない。これらは動詞との関連といった統語レベルによって、または前後の文脈などにより、はじめて意図・目的あるいは能力といった意味を示すものかどうか判別できると言える。また貶義形容詞については語彙レベルで好ましくない意味を持つため、意図・目的あるいは能力といった意味を示すケースが極めて少ない。よって多くの場合、このタイプの形容詞が“A”を担うものについては、多義性はないと見なされてきたと言える⁴⁾。

2.3 “A”の意味指向

次に多義性がある“V得A”構造における“A”について、さらに別の観点から考察する。(1)～(10)のように状態か可能かの判断がつきにくい例を調査してみると、これらは“A”が主に“快”、“好”、“早”、“清”、“准”、“久”などの例が多く見られる。そこでこれらの成分について意味的な側面で考察をすると次のようなことがわかる。

結果補語及び状態、可能補語などは意味指向という一種の分析法を用いて、同じ文中のその他の成分との関係を明らかにすることができる。そして、この意味指向により大きく三パターンに分けられる⁵⁾。簡潔に述べると、一つ目は補語が文中で前後の名詞性成分と意味的な関連を持つもの。意味指向が名詞性成分であるもの。二つ目は前の動詞と意味的な関連を持つもの、つまり意味指向が前の動詞であるもの。三つ目は補語が虚義的なもの、つまり意味指向はなしと分析されるものである。そこでこの分類と(1)～(10)におけるような

例を照合してみると多義性を持ち、曖昧性が生じていると見なされてきたものは、ほとんどが意味指向が動詞であるパターンに属する“V得A”であることがわかる。一方、補語の意味指向が前後の名詞性成分である例に関しては、これらは状態補語を伴う動補構造とされてきたものがほとんどで、可能補語を伴う構造と見なされるものは非常に少ないということができる。

以下の(12)～(15)における例は意味指向が前後の名詞性成分にあるものであるが、これらは従来の観点から考えると、多義性があるとは考えにくく、状態補語と見なされるのが一般的である⁶⁾。

- (12) 孙毛旦穿得厚，不觉得有风。《故》
- (13) 他的墓碑上的字也写得漂亮，是一种真正的书法。《文》
- (14) 黄瓜嘴就端着一个水烟袋在牛屋院里转，后来渐渐养得胖了。《故》
- (15) 黛二又说母亲活得累，作了一辈子无用功也不自知。《陈》

したがって、例文中の“穿得厚”，“写得漂亮”，“养得胖”，“活得累”や、そのほか“洗得白”，“挖得深”，“抬得高”などについては、おおよその場合、状態補語を伴う“V得A”であるとされたため、多義性が認められることは極めて少ない。

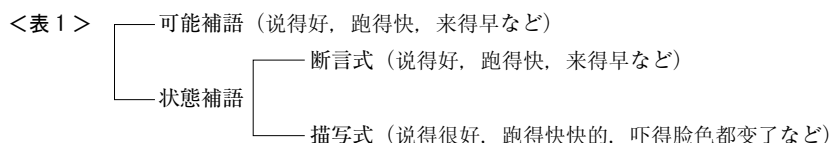
ここでは“V得A”の中でもどのような特徴を持つものに多義性があり、曖昧性が生じていると見なされてきたのかということを考察し、二つの点を導き出した。これまで可能及び状態という二つの意味を持ち、曖昧性が生ずると考えられていたのは、実は決してあらゆる“V得A”についてではなく、全体の一部分にすぎないということを指摘しておきたい。

3 二つの“V得A”の類似性

序章でも述べたが本稿では状態、可能と二つの補語に分類することに関して疑問を提示する。次章では“V得A”について、この構造における二つの異なる補語は同類のものと見なすべきであるという見解を示す。本章ではこの見解の裏付けとして様々な角度から、両者の類似性、連続性を示していく。また両者の差異を考察する過程において、“V得A”は曖昧性を引き起こす構造ではないということにも言及する。

3. 1 統語的類似性

朱 1982, 134-135 頁, 張賦 2000, 83-84 頁では状態補語が単一の性質形容詞であるもの(断言式)と程度副詞を伴うものや重ね形, その他複雑な形式もしくは状態形容詞であるもの(描写式)の二つに分けられている。この状態補語の二つのタイプに性質形容詞による可能補語を加えると以下の<表 1>のような構図ができる。



朱 1982, 134-135 頁, 張賦 2000, 83-84 頁ではさらに状態補語に関する以下の三つの統語的特徴が記されている。ここでは主に<表 1>における断言式は同じ類に位置付けられている描写式よりも, 性質形容詞による可能補語を伴う“V 得 A”と類似点が多いことを指摘し, 両者の類似性や連続性を示す^{7) 8)}。

- | | |
|-------------|-------------|
| ① × 把眼睛睁得大 | ○ 把眼睛睁得大大的 |
| × 两只手给捆得紧 | ○ 两只手给捆得紧紧的 |
| × 一筐鸡蛋被压得烂 | ○ 一筐鸡蛋被压得稀烂 |
| ② × 洗得干净的收着 | ○ 洗得干干净净的收着 |
| × 站得高的往下瞧 | ○ 站得高高的往下瞧 |
| ③ × 早就想得透彻 | ○ 早就想得很透彻 |
| × 已经走得远 | ○ 已经走得很远 |
| × 马上忘得干净 | ○ 马上忘得干干净净 |

これらをまとめて述べると①は, 断言式は“把”, “被”, “给”構文においては用いることができないという統語上の特徴である。一方, 補語が複雑形式つまり描写式であれば成立する。また可能補語を伴う動補構造も同様に“把”構文などでは用いることはできないということはよく知られた文法規則であり, ここに両構造の類似点が見て取れる。

②では断言式は状況語になれないことが示されている。一つ目の特徴と同様に補語が描写式なら成り立つ。性質形容詞による可能補語を伴う“V 得 A”も同様に後ろに“地”を伴い, 文中で状況語としては用いられにくい。

③では時間を示す副詞“已经”，“早就”，“马上”などと共起できるか否かということが挙げられている。断言式の場合はこれらの副詞と共起できないが描写式である場合は共起できる。可能補語を伴う“V得A”についても“也许”，“大概”などの副詞とは共起しやすいが，時間を示す，上に挙げた“马上”などの副詞とは共起しにくいということが指摘できる。

3.2 意味的類似性

従来，状態補語を伴うとされた“V得A”そのものの文法的意味は何であろうか。これは「“V”の格を担う人・事物・事象の属性的な性質，或いはこれらが動作行為に伴いどのような状態になったかということを発話者が評価・判断する。」という定義がふさわしいと言える⁹⁾。一方同じ性質形容詞による可能補語を伴うとされるものについての文法的意味も，ほぼ同じように定義付けることができるかと思う。可能補語を伴う構造として見なされることが多い，例えば“跑得快”や“起得早”について，これらの補語の意味指向は動詞であるとされ，一見，人・事物・事象の状態を述べるものとは考えにくい。ただ，これらにもその動詞の意味的な特徴から導かれる事象というものがあり，発話者はその事象に対して評価・判断しているものと考えられる¹⁰⁾。つまり前者は“跑”に関わる速度という事象を，後者は“起”に関わる時間について，それぞれ評価・判断するものであるという意味分析ができる。このように両者の文法的意味には本質的な差異はないものと見なすことができる。両者の主に意味の面での関係を整理すると，以下のような図式で示すことができると考える。

<表2>

“V得A”			
“V”の格を担う人・事物・事象の属性的な性質，或いはこれらが動作行為に伴いどのような状態になったかということを発話者が評価・判断する。(文法的意味)			
意図・目的あるいは能力	意味指向→直前の動詞	未然的，恒常的	状態補語
可能補語・状態補語			

つまり，すべての“V得A”は実線で囲った部分にあるような本質的な文法的意味を持つ。ただこの文法的意味に加え，その下に点線で囲ってある，2章で述べた，主に形容詞の語彙的特徴から導かれる意図性，能力といった意味，または意味指向が動詞であるということ，さらに未然的，恒常的といった副次的な要素が認められる場合は，さらに可能の意味が顕著になり可能補語であると見なされる場合が多い，というように解釈ができるか

と思う。従来の分析で問題なのは、文法体系の中で否定及び疑問形式の差異により状態補語と可能補語が対立項として位置付けられたことにより、それに関わる文法的意味もが対立的であると考えられてきたことである。これまで、状態、可能と分けられていた二つの“V得A”については、文法的意味が実は本質的には同一のものであると言える。ただ、単に副次的な要素から一方の意味が強く認められるということに過ぎず、決して明確に二分立できるものではないことを強調しておきたい。

守屋 1988 では已然的な事態を表さない以下のような状態補語を伴う“V得A”の例が挙げられている。そして、状態補語を伴う動詞の表す動作行為が已然的でなくともよい三つの条件が詳しく述べられている。これらを参考にして、さらに状態補語と可能補語の主に意味に関する相違を考えてみたい。

- ・ 要想发现问题必须钻研得深。
- ・ 只有老师教得好，学生才能学得好。
- ・ 这种花水要浇得多才行。
- ① 恒常的な、或いは多回の反復の動作行為について述べる。
- ② 事実から導かれた結論性の帯びた評価を表している。
- ③ 話し手がそのような事態の実現を望んでいる、或いは確信している。

＜守屋 1988＞より

恒常的、多回の、結論性の帯びた評価、事態の実現を望んでいるといった主に意味的要素が挙げられているが、これらはどれもが可能補語を伴うとされる“V得A”の意味的特徴と非常に類似しているということがわかる。当論文ではこれらの例は、すべて状態補語を伴うものと見なされているようであるが、角度を変えて考察すれば、これらが可能補語の構造ではなく、状態補語の構造であると判別する理由は何であるのかということを問題としなければならないであろう。上のような状態補語の例と可能補語との間には、このように意味的類似性、連続性が指摘できるばかりか、両者の間の境界線も決して明らかではないことがわかる。

3. 3 意味・語用的類似性（曖昧性について）

“V得A”という構造レベルで状態と可能、つまり静態的な側面から見て、この二つの意味を持つということは多義性である。一方、ここでは言語行為において、つまりある文

中に用いられたものが前後の文脈の影響を受けながらもどちらの意味であるか判別がつかない、という現象である曖昧性について見ていく¹¹⁾。前で挙げた例(1)～(10)のように状態補語か可能補語かという判別をつけ難い例が多々あることは事実である。そのような場合よく判別の根拠とされるのは、すでに実現している已然的な動作行為に従う、或いは付随する結果や状態と見なされれば状態補語であり、未だ実現していないという未然的なものと見なされれば可能補語とするという方法である。李 1984 はある文において用いられた例について、それが状態補語を伴う構造であるのか、もしくは可能補語を伴う構造であるのか、実例を挙げて分析している。その際に判別の根拠として中心的に用いられているのは、已然的（評価性→状態補語）－未然的（推測性→可能補語）という両極の関係である。ただ、この已然的、未然的であるという時間に関する文法概念はあくまで文レベルで議論されるべきものであり、“V得A”が構造レベルで持つ意味と直結するものかどうかということに関しては検討の余地があると考えられる。よって状態か可能かの判別の際にこのことを適用できるのか、ということも見なおす必要があるものと思われる¹²⁾。李 1984 で使用している例は“A”が“好”などの褒義形容詞で担われたものが主であるが、例えば“跑得慢”、“来得晚”、“走得累”など中性形容詞や貶義形容詞で担われた例についてはどうであろうか。これらのタイプは前でも述べたように、已然的な動作であろうが未然的であろうが状態補語として見なされる傾向が強いということが指摘できる。同時に可能補語を伴う構造として見なされ得るのかということも考えなければならない。また補語を担う形容詞の前に程度副詞があるものや、形容詞が重ね形である場合は典型的な状態補語と見なすことができるが、直前に“会”、“一定”、“一准”などがあるとそれは未然的である。そうすると状態＝已然的という関係は完全に成立するものではないということになる。また時間に関しては已然、未然という二つに限られない。つまり経常的な動作行為、一回性ではない多回的な動作による例に対してはどう解釈したらよいのかという問題が残る。事実“V得A”が用いられた場合、このような経常的な動作行為による状態に対しての評価・判断を示すものが比較的多いと言える。例えば(3)(4)(7)(8)(10)はいずれもこのタイプに属するものであると言える。このようなことから判別に、已然的＝状態、未然的＝可能ということを用いるのは多少の問題があるというように解さざるを得ない。

いささか原則的な議論になるが、“V得A”に関するこれらの現象は、はたして曖昧性と言えるのかということを考えてみたい。曖昧性とは前でも述べたが言語行為において一つの形式が二つの意味のどちらにも解釈ができ、判別ができず、コミュニケーションに何らかの弊害がもたらされるという現象である。ただこの二つの意味は静態的な角度から見

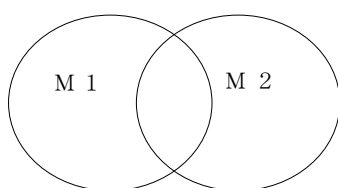
た場合は明確に二分される必要がある。例えば“母亲的回忆”という形式には「母が抱く思い出（母は動作者）」と「母に対する思い出（母は動作の対象）」という二つの意味があり、時には曖昧性を引き起こすが、この二つの意味は静態的に見れば、全く異なるものであり、明確に二分できる。しかし“V得A”に関しては3.2で見たように状態補語と可能補語の意味の間には“母亲的回忆”の二つの意味の間にあるような明確な境界線はない。

沈1991では次のような二つの概念が提示されている¹³⁾。

他在火车上写标语

M1 他坐在火车上写标语

M2 他把标语写在火车上

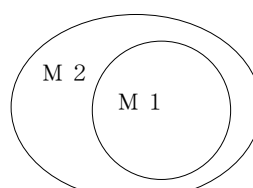


歧义

他写了一封信给我

M1 “写”表示“书写并给予”

M2 “写”只表示“书写”



由语义的不确定性造成的多义

M2：他临走的时候写了一封信给我，让我转交给你

まず“歧义”（曖昧性）について言うと、例えば“他在火车上写标语”には二つの意味、M1とM2があり、これらの意味はともに独立性を帯びるものであると述べられている。それゆえ上図に示すように、一義的な別の文構造で二つの意味を示すことができるとされている。一方、“他写了一封信给我”にも二つの意味が認められるが、これらは完全に独立するものではなく、一方がもう一方を包含する関係にあるという分析がなされている。つまりM1における“写”には“書く”“与える”つまり“書いて与える”という意味があり、例文中の“我”は“信”の事実上の受取人であるということになる。M2における“写”には“書く”という意味しかなく、“我”は事実上の受取人であるとは限らない。つまり“他临走的时候写了一封信给我，让我转交给你”といった意味である。これらは“他在火车上写标语”の例とは異なり、一義的な別の文型で二つの意味を具現化することができない。沈1991ではこの“写”のような例については“由语义的不确定性造成的多义”「意味の不確定性による多義」と称し、曖昧性と区別している。

これまで“V得A”という構造に対して認められてきた二つの状態、可能という意味は一般的に曖昧性（“歧义”）であると考えられてきた。しかし実は曖昧性ではなく、この

「意味の不確定性による多義」という現象に属するものではないかということが考えられる。

他跑得快。

M1 “跑得快”表示“状態”并“可能”

M2 “跑得快”只表示“状態”

沈 1991 の図式を用いれば、例えば“他跑得快。”については、M1 としては“状態”及び“可能”、M2 には“状態”のみという分析ができると考えられる。

4 “V 得 A”に関する分類方法

下の<表3>は現行の文法体系にしたがい、“得”の後ろの補語を担う成分の特徴とその分類を対照したものである。

<表3>¹⁴⁾

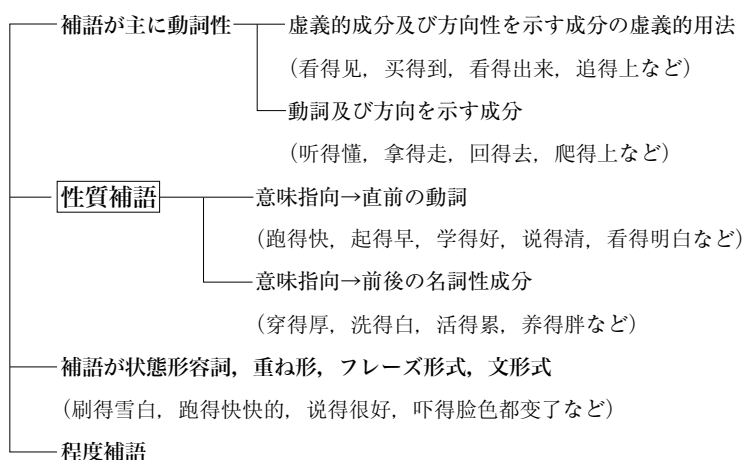
補語	虚義的成分	方向性を示す成分	動詞	性質形容詞	状態形容詞	フレーズ形式
分類	可能補語			状態補語		

状態と可能の補語分類に関しては一見、フレーズを構成する一要素としての機能や意味によって分けられているようであるが、<表3>からもわかるように、実際はおおよそ補語の部分を担当する語の語彙的特徴や形式によってなされているものであることがわかる。ただ補語が性質形容詞である場合のみ、状態か可能補語かということが語彙レベルでは十分に判断できず、その他の事項に依拠して判別するしかないと言することができる。ただこのことが直接、従来言われてきた二つの補語に関する曖昧性の問題を引き起こしているものと思われる。つまり、状態か可能かという判別の必要性が問われる主な原因として、このような補語の分類方法が影響していると考えられる¹⁵⁾。

性質形容詞で担われる補語のすべてが状態補語かあるいは可能補語になり得るのであれば、従来の<表3>のような分類の必要がある。しかし、本稿2章で示したように実際すべてに多義性が認められるものではない。また3章で示したように両者の間にはあらゆる面で類似性があり、またそれぞれの文法的意味の区別も明確ではない。このようなことから本稿では“得”の後が単一の性質形容詞で担われる補語については、すべて同じ一つの類にまとめるべきであるということを主張したい。本稿で考案する分類は以下のようなも

のである。

<表 4><“得”によって導かれる補語>



状態と可能という意味は非常に捉え難く、そう単純なものではない。さらにこの両者の意味は対立的ではない。したがってこれらの意味に基づき補語分類をするのではなく、完全に形式に基づくべきであるという考えに従って分類を行なった。<表 1>で示した、性質形容詞による状態補語の一類である断言式と、補語の成分が性質形容詞である可能補語とを一つの類にまとめるという操作を行ない<表 4>のような分類をした。そして、補語を担う成分が性質形容詞であることから、この類の補語を性質補語と称するのが適切であると考えた。さらにこの性質補語に対する下位分類の一つの方法として、動詞に意味指向するものと前後の名詞性成分に意味指向するものに分類ができる。このほかどのような下位分類が適当であるかということに関しては今後の課題としたい。

性質補語については以下のようにまとめて、定義することができる。

性質補語：“得”によって導かれる補語の一類であり、単一の性質形容詞のみ性質補語となり得る。“得”の前にある動詞の格を担う人・事物・事象の属性的な性質、或いはその動作行為により生ずる人・事物・事象の状態に対して、発話者が評価・判断を表す場合に用いられる。その中で、意図・目的あるいは能力といった意味的な要素があるもの、また直前の動詞に意味指向するものについては可能を示すことがある。

もはや言うまでもないが、この分類によって“跑得快”、“说得好”、“起得早”などは

状態、可能のどちらかということではなく、すべてが性質補語を伴う構造ということになる。そのほか、補語が性質形容詞であるものを除いた従来可能補語とされた一類については虚義的な成分、方向性を持つ成分であるものと動詞であるものとみとなる。そしてもう一方、同様に補語が単一の性質形容詞であるものを除いた従来状態補語とされた一類に関しては状態形容詞、重ね形、フレーズ形式、文形式、つまり<表1>の描写式に属するものだけとなる¹⁶⁾。

最後に、本稿で提示した新たな分類方法は従来の分類と比較すると、どのような利点があるのかということをもとめる。まず、このような分類を用いることにより、状態か可能かという二者択一的な判別の必要性をなくすることができる。言語行為において状態補語か可能補語か判別がつかない“V得A”が存在する、という現存の問題に対する解決方法の一つになるかと思う。さらにもう一つまったく別の観点から言えることは、「性質-状態」という名称に対して、語彙レベルと文成分の関係において整合性を保つことができる。つまり、これまでの分類法によると、例えば“快”という一つの形容詞を見た場合、これは語彙レベルでは性質形容詞とされる。つまり状態形容詞とは区別されているにもかかわらず、文成分の補語として用いられると状態補語といわれ、非常に紛らわしい対応関係にあった。しかし本稿で用いた分類法によれば性質形容詞は性質補語、状態形容詞はまた別の異なる補語というように整然とした対応関係が構築でき、このことは特に教育の場において効果的であると考えられる。

5 否定形式との対応関係について

従来、同じ形式の“V得A”が状態補語を伴うものと可能補語を伴うものに分類されるのは否定形式及び疑問形式との対応関係によるところが大きいと言える。これまで棚上げにしてきたが、<表4>のような分類をすると否定形及び疑問形に関してどう処理するかという問題が残る。ただ管見によれば、これらの対応関係については整然とした対応をなしているとは見なし難い事象がいくつか指摘できる。まず、もし整然とした対応関係をなしているのであれば、状態か可能か判別がつかない例が出てきたとき、その否定形や疑問形によって、ある程度は判別できるはずである。しかし実際はこのような例に対して否定形あるいは疑問形から判別するということは、これまでの先行研究において用いられていないことから非常に難しいと言える。さらに、可能補語の否定形である“V不A”は形式的には“V得A”との対応関係が認められるが、意味的な範疇においては“V不A”の肯

定形は結果補語を伴う“V A”であるのか、または“V得A”であるのかといった議論もある。また実際の使用状況においても“V A”と“V不A”、“能V A”と“V不A”が併用されている例も多々見られる。また詳細についてはここでは省略するが、“V A”というフレーズを基点として考えた場合、“V不A”には変換できるが、“V得A”には変換できないものの類がある。これらのことは両者を「肯定形—否定形」と位置付けることに対しての反証となる。また状態補語を伴うものの否定形には前で挙げた形式のほかに“没V得A”という形式も存在し、この形式との関連性、対応関係も無視できない¹⁷⁾。

さらに、以下で述べるような事象により、“V得不A”を以って状態補語伴う動補構造の否定形と位置付けることを見なおす必要性を問うことができる。

例えば“洗得不干净”は状態補語の否定形であるが、さらに<表1>で述べた状態補語の下位分類における断言式の否定形なのか、描写式の否定形なのかという判別が必要になるろう。

- (16) 这件衣服洗得干净，那件衣服洗得不干净。

(16)の“洗得不干净”は断言式の肯定形と併用されていることから、断言式“洗得干净”の否定であると言える。ただ断言式“V得A”の否定形はこのように文中で肯定形と併用される以外は使用されにくいものであると言えるのではないだろうか。単独で文中に用いられた場合は、一般に描写式の否定形であることが多いのではないかと考えられる。

- (17) 它的车辆，只有笨重的，破旧的，由乡下人赶着的大敞车，走得不快，而西唧西唧的乱响。《四》
- (18) 另一个角落长着些芒果树和木瓜树，可惜太阳力量不够，果实结得不肥，但沾着点热带味。《朱》
- (19) 她长得不美，可是眉眼很媚。《四》
- (20) 九姑虽然在上海待得不久，可是她主动地要求参加我们的学习会。《巴》

これらの(17)~(20)の下線部，“V得不A”の用例はすべて断言式の否定というより、どちらかといえば描写的な表現であるということができる。

また史 1994 では次のようなことが指摘されている。

- A 这衣服洗得不干净。(单纯描述, 有不满的语气)
- B 这衣服洗得干净(对比评价, 有强调的语气)
- C 这衣服洗得很干净。(单纯描述, 比较客观)
- D 这衣服洗得干干净净(的)。(生动描述, 带有主观感情色彩)

这4个例句形成两大类, A, C, D都是描述型的, B是对比型的。但是描述型的3种又有不同的表达: 其中A, C两例都是单纯描述的, 只是一个肯定, 一个否定, 因此宜分为两小类: (以下略)

この分析を見ると“洗得不干净”は“洗得很干净”の否定形であるとされていることがわかるかと思う。つまりこの文における“洗得不干净”は<表1>における描写式の方の否定形であり, 断言式の類の否定形ではないということになる。また当論文では限定語として用いられた場合や条件を表す節ではBの形式だけが不成立であるという, 機能的な差異なども示されている。このような統語的な規則からも“V得不A”は<表1>の描写式の否定形であると言える。ただ同様に断言式の否定形であるかどうかということについては, さらに検討の余地があるのではないかと考えられる。以上のようなことから, 従来の状態, 可能という補語の分類に関して否定形式の差異を分類の基準とすることはいささか問題があると思われる。

そのほか分類に関して否定形式及び疑問形式を根拠とすることに対する問題点として次のようなことが言えよう。補語の分類全体に着眼点をおいた場合, 否定及び疑問の形式が分類の根拠とされているのは状態補語と可能補語の境界線のみである。そのほかの結果, 方向, 数量, 程度などの各補語の分類に関しては否定形, 疑問形は関与していない。状態, 可能の境界線だけに否定形もしくは疑問形という基準を用いるなら, なぜこの境界にだけ用いられるのかということに対する理由が明確にされる必要がある。

6 まとめ

現行の文法体系における二つの“V得A”について, 両者の文法的意味は明確に二分され得るものではないため曖昧性はないということを証明した。これまで一般的に曖昧性が生じている例があると考えられてきたのは, “V得A”という一つの形式における“A”が補語の大分類で状態, 可能という別の類に振り分けられているためである。それによって二者択一的な判別の必要性が認められてきたという見解を示した。さらに二つの補語について様々な角度からそれらの類似性, 連続性を示し, 従来二つの補語に分けられていた

ものを一つの類にまとめるという分類方法を述べた。つまり今まで可能補語とされてきた一部と状態補語と見なされてきた一部を合一させ、それらを性質補語と呼び、同時に従来の可能補語、状態補語の類から離脱させ、完全に形式により分類した。このように分類することにより、以前から言われ続けてきた、状態か可能か判別できない“V得A”が存在するという問題を解決することができるのである。

注

- 1) この補語に関しては用語が統一されていないが、本稿では「状態補語」と称する。
- 2) 中国語で言われる“歧义”を本稿では「曖昧性」と称する。
- 3) ここでは“V得A”における“A”の意味特徴によって多義性の有無を導くことを試みたため、前の“V”との関連性は度外視している。したがって勿論、“苦根年纪小，也就累得快。”《活》における“累得快”のような例外も存在する。
- 4) ただし、貶義形容詞で構成される“V得A”の実例は非常に少ない。“V得A”という構造が示す文法的意味とこの類の形容詞の語彙レベルでの意味が抵触し合うためであると考えられるが、この問題については本稿の主旨と直接かわりがあるわけではないこともあり不問に付す。
- 5) 范 1996, 265-268 頁，高・王 1995, 307-314 頁を参照。
- 6) これは中国語に限ったことではないが、可能という一つの文法範疇は主に動詞とかかわるものであり、これは統語レベルのみならず意味レベルにおいても同じことであると言える。このことによって意味指向という観点からも、直前の動詞と関連を持つものは可能補語と見なされやすいのではないかと解釈することができる。石 2001, 193 頁を参照。
- 7) ここで挙げた、可能補語、状態補語断言式、状態補語描写式について、北京語ではこれらはすべて“得”によって導かれるものであるが、可能補語と状態補語断言式を導くのに一つの語が用いられ、状態補語描写式には別の語が用いられる方言もある。例えば湖南方言など。柯理思 2001 を参照。このことは可能補語を一類、断言式と描写式を合わせて一類とする現行の分類は普遍的なものではないことを示唆している。
- 8) 小野 1993 でも、これらのことが言及されている。
- 9) 张 1999, 194-199 頁，黄・廖 2000, 89-90 頁，贺 1999, 大滝 1995 を参照
- 10) 贺 1999 を参照。
- 11) 多義（“多义”）と曖昧性（“歧义”）の区別については邵 2000, 362-363 頁，王 1988 で詳しく述べられている。
- 12) 王・施 1992 には以下のような指摘がある。文中の「补语 1」は断言式，「补语 2」は描写式を表している。
「“时”是时间词或语境来确定的，不是形容词状语或补语来表示的。无论状语与补语 1，补语 2 原则上都可以使用在任何“时”的句子里。只不过，使用条件与优先级（常用性）不同罢了。」
- 13) 当論文ではこの二つのほかに笼统（generality）という概念も提示しているが、本稿の要旨とはかわりが薄いため、ここでは省略する。
- 14) 虚義的成分とは“到”，“住”，“着”，“见”などの意味指向を持たないもの。方向性を示す成分

とは方向を示す本義的なもの、もしくは方向補語の派生義を示すものである。

- 15) その他の補語に関する多義性を具える例を見てみると、例えば結果補語を伴う“挖深了”“剪短了”などの形式には予期された或いは期待された結果の実現と予期された結果とのずれ、過分義(“偏离”)を示すケースがある。この“挖深了”の二つの意味は比較的顕著な差異があるように思われるが、これらは結果補語という同じ類に収められているため多義性を持ち、曖昧性を引き起こす構造としてはそれほど注視されていないものと言える。“V得A”は初級の中国語教材でも、その多義性についての説明されることが多いが、この結果補語の多義性について教材で述べられることは多くない。
- 16) これらの補語の名称と下位分類に関しては今後の課題としたい。
- 17) 石 1992, 238-239 頁, 田口 1987 を参照。

【主要参考文献】

- 范 晓 1996 『三个平面的语法观』北京语言学院出版社
- 高更生・王红旗 1996 『汉语教学语法研究』语文出版社
- 贺晓萍 1999 「关于状态补语的几个问题」『语文研究』第 1 期
- 黄伯荣・廖序东 2000 『现代汉语（增订二版）下册』高等教育出版社
- 竞 成 1993 「补语的分类及其教学」『世界汉语教学』第 3 期
- 柯理思 2001 「从普通话里的“得”有关几个格式考虑方言类型学」『语言研究』第 2 期
- 刘月华等 2001 『实用现代汉语语法（增订本）』商务印书馆
- 刘月华 1980 「可能补语用法研究」『中国语文』第 4 期
- 李浚平 1984 「试析带“得”动补结构多义现象」『现代汉语补语研究资料』559-571 頁 北京语言学院出版社
- 陆俭明 1992 「现代汉语补语研究资料（序）」『现代汉语补语研究资料』1-7 頁 北京语言学院出版社
- 马真・陆俭明 1997 「形容词作结果补语情况考察（二）」『汉语学习』第 4 期
- 小野秀樹 1993 「“得”補語が表す「可能」の意味」『中国語』6 月号 内山書店
- 大滝幸子 1995 「述語補語統合型の統合意義特徴:動詞と形容詞との組み合わせを対象として」『東京大学東洋文化研究所紀要』第 128 冊
- 邵敬敏 2000 「歧义——语法研究的突破口」『语法研究入门』362-381 頁 商务印书馆
- 杉村博文 1992 「可能補語の考え方」『日本語と中国語の対照研究論文集』213-232 頁 くろしお出版社
- 沈家煊 1991 「“语义的不确定性”和无法分化的多义句」『中国语文』第 4 期
- 史有为 1994 「“把墙刷得白”为什么不能说？」『汉语学习』第 2 期
- 石毓智 2001 『语法的形式和理据』江西教育出版社
- 石毓智 1992 『肯定和否定的对称與不对称』台湾学生書局
- 守屋宏則 1988 「“爸爸今天晚上回来得晚”について」『東洋大学紀要』27 号
- 田口喜久 1989 「現代中国語の補語をともなう“得”の解釈について」『東京大学言語学論集』通卷 10
- 王邱丕・施建基 1992 「补语与状语比较」『语言教学与研究』第 4 期

- 王维成 1988 「从歧义看句法，语义，语用之间的关系」『语言教学与研究』第 1 期
肖国萍 1998 「近二十年来的汉语歧义研究」『语言文字学』（人大复印资料）第 9 期
张赋主编・齐沪扬 2000 『现代汉语短语』华东师范大学出版社
张旺熹 1999 『汉语特殊句法的语义研究』北京语言文化大学出版社
朱德熙 1982 『语法讲义』商务印书馆

【用例出典】

- 《活》余华 1998 《活着》南海出版公司
《四》老舍 1998 《四世同堂》人民出版社
《朱》朱自清 2000 《朱自清散文选集》百花文艺出版社
《巴》巴金 1995 《巴金自传》江苏文艺出版社
《围》钱钟书 1994 《围城》人民文学出版社
《故》刘震云 1991 《故乡天下黄花》中国青年出版社
《文》余秋雨 1997 《文化苦旅》东方出版中心
《陈》陈染 1996 《陈染文集 1》江苏文艺出版社

無標の例文はインフォーマントのチェックを受けた作例である。